



# そよ風

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています



## 第2回 ワクチン接種の 「安心」を考える

- ▶ 第2回 ワクチン接種の「安心」を考える
- ▶ 安心、安全で質の高いロボット手術
- ▶ 14階が腎・泌尿器専門病棟としてリニューアルしました
- ▶ 鼻の外来、はじめました
- ▶ 女性医師による心のかよった乳がん診療
- ▶ 同種造血幹細胞移植後長期フォローアップ外来 (LTFU) のご紹介
- ▶ 皮膚腫瘍外来での手術・治療について
- ▶ 診療科紹介 小児科 (新生児)
- ▶ 認定看護師・専門看護師の活動について
- ▶ 臨床試験ボランティアマッチングポータルのご紹介

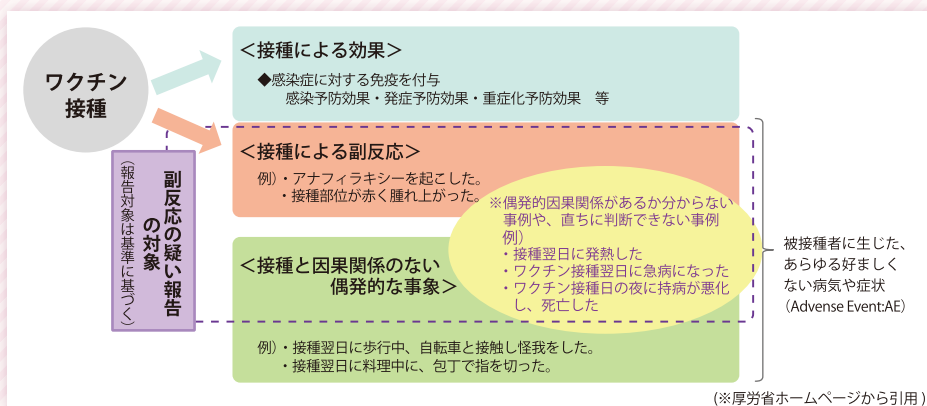


新型コロナウイルスワクチンの接種が日本・世界各地で進んでいます。日本では、希望する方へのワクチン接種を速やかに進めるために、政府が設置した大規模接種センターをはじめ、医療機関や職域などでも接種が加速化しています。

今回は、ワクチンの有効性についてご説明しました。今回、第二弾として、ワクチンの接種後に生じる「副反応」について、国が整備する体制も含めてご紹介したいと思います。

ワクチン接種の目的は、免疫反応を誘導し、感染症に対する免疫を付与することです。そのため、効果とともに、接種した部位が腫れるなどの「副反応」は少なからず生じるものです。また、接種とは直接関係がなくても、接種後にたまたま(偶然に)良くない事象が起こることもあり、専門用語で「有害事象」といいます。副反応と有害事象の区別は難しいこともありますが、これらのうち一定の基準を満たしたものは、国が定める「副反応疑い報告制度」に報告することになっています。このような制度は、各国で整備されているものであり、ワクチンの安全性を考える上でのシグナル検出(日本語でいうと「兆し」の検出といったところでしょうか)に役立てています。

新型コロナウイルスワクチンの副反応については、承認前の治験データから、注射部位の痛み、疲労感、頭痛などの頻度が高いことが分かっていたが、これらは海外のデータでした。そのため、日本では、厚生労働省研究班が主体となって、接種後副反応の発現状況をタイムリーに公表する仕組みを整備しました。2021年2月以降はファイザー社製ワクチンの接種を受けた医療従事者約2万人、2021年5月以降はモデルナ社製ワクチンの接種を受けた自衛隊員約1万人のご協力を得て、ワクチン接種後の副反応を前向きにアンケート調査し、その集計結果は厚生労働省ホームページで随時更新されています。



([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_kenkoujoukyoutyousa.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_kenkoujoukyoutyousa.html))

【厚生労働省新型コロナウイルスワクチンの接種後の健康状況調査 [検索]】

日本人では接種後の発熱が予想以上に多いことが分かりましたし、この結果から、「接種当日と翌日は仕事を軽くしておこう」「ほとんどは数日でおさまるのだな」などの心づもりができるようになりました。このような取り組みは、日本で初めて行われたことも是非知っていただきたいと思います。「今はまだ様子を見たい」という方も、「やっぱり打とうかな」という方も、国から発信される情報を積極的に活用して下さい。

次回、第三弾は「海外から見た日本のワクチン接種」をご紹介します。

(公衆衛生学 福島 若葉)

# 安心、安全で質の高い ロボット手術

消化器がんの手術は現在ロボット手術が席捲し始めています。ロボット手術は決してロボットが手術を行うわけではなく、医師がロボット機器を操作し、手術を行います。ロボット手術の特徴は、手のように動く多関節機能や細かい作業も可能となる手ぶれ防止機能、鮮明で立体的に見える3D画像です。この特徴を生かしたロボット手術のメリットは従来の開腹手術に比べ、創が小さく、出血が少なく、術後の回復が早いことに加え、神経や血管など残すべきものを確実に温存し、取るべきものは徹底して切除する精緻な手術が可能になることと考えられています。当科では現在食道がん、胃がん、直腸がんに対してエキスパートによるロボット手術を行っており、2020年度は前年度に比べ手術件数が4倍に増加し、現在もロボット手術の割合は増加しています。患者さんにとって安心、安全で質の高いロボット手術を提供することを心がけて日々手術を行っています。消化器疾患で手術を考慮される方は是非ご相談ください。

(消化器外科 福岡 達成)



手術の様子

## 14 階が腎・泌尿器専門病棟としてリニューアルしました



移転に伴いリニューアルした人工腎部 (透析室)

本年4月より、当院人工腎部 (透析室) が8階、腎臓内科病棟が11階より、14階へと移転しました。これにともない14階に泌尿器科 (腎移植)、人工腎部、腎臓内科が同じフロアに集合し、保存期腎疾患から透析・腎移植、急性腎不全と言った腎疾患を対象に、シームレスで包括的な医療が患者さんへ提供可能となりました。リニューアル後の人工腎部では、最新の医療機械を配置し腎不全に対する透析療法のみならず、腎疾患・肝疾患・消化器疾患・皮膚科疾患・血液疾患・神経疾患における難病に対して血漿交換を始めとするアフレスリス治療がより低侵襲で可能になり、中央部門としての機能がより充実しております。また、照明設備やフロアのカラーリングも一新され明るく清潔感あふれる病棟になりました。

(泌尿器科 長沼 俊秀)

## 鼻の外来、はじめました

2021年4月より耳鼻いんこう科に「鼻副鼻腔(びふくびくう)外来」を開設しました。

鼻の奥には、頬やおでこの骨の中へ広がる空洞(副鼻腔)があります。

副鼻腔炎(ちくのう症)は鼻づまりや鼻水などの原因になりますが、鼻の処置や投薬でも症状が良くならない方は手術を行うことがあります。現在では内視鏡で鼻の穴から手術を行うため、外見上傷がつくことはありません。

近年、好酸球性副鼻腔炎という再発しやすい副鼻腔炎が増えており、指定難病となっています。鼻茸(はなたけ)(ポリープ)ができやすく、嗅覚障害や粘り気の強い鼻水が出るのが特徴です。治療は、鼻茸を取り除き再発しにくい鼻の構造に整える手術を行いますが、再発する方には生物学的製剤による治療も行っており、良い結果が得られています。

鼻の中にできる腫瘍に対しても、できるだけ内視鏡を用いて低侵襲な治療を行っています。

(耳鼻咽喉科 寺西 裕一)



鼻副鼻腔外来担当医 (左から寺西、吉田)



内視鏡下鼻内手術



# 女性医師による 心のかよった乳がん診療

「乳がん」は女性が最もかかりやすい「がん」であり、日本人女性の9人に1人がかかる病気と言われています。他部位の「がん」と比べて経過が長いことから、発症からその後の治療過程において、患者さんは「がん」と共に生きながら社会に適応してゆかねばなりません。

そのため私たち乳腺外科医は、手術で患者さんの生命を救うだけでなく、その後の人生をも救うつもりで診療にあたらなければならないと考えております。そして、同性であるからこそ持てるやりがい、理解できる苦悩があります。当院では、専門医資格を有する女性乳腺診療医が外来診察を担当しており（月・火・水曜日）、女性の視点から患者さんに寄り添い、心のかよった診療を目指しています。

（乳腺・内分泌外科 浅野 有香）



乳腺・内分泌外科スタッフ



すべては乳がんで  
苦しむ患者さまのために

## 移植後長期フォローアップ (LTFU) 外来の紹介

当院では、看護師実務経験5年以上かつ造血細胞移植医療に2年以上従事した看護師が、移植看護について専門の研修を受け、病棟業務と兼務しながら造血細胞移植治療を受け退院した患者さんやご家族を対象にLTFU外来を実施しています。

移植後退院してからも移植片対宿主病や感染症などの様々な合併症、学校や職場への社会復帰など多岐にわたる問題に直面することがあり、日常生活における悩みも様々抱えておられます。

そのため、LTFU外来ではこのような移植後合併症の予防や早期発見、症状緩和に努め、患者さんやご家族の悩みや不安を軽減し、より快適な日常生活が送れるよう患者さんに合わせたアドバイスや指導を行っています。必要に応じ、医師や理学療法士、栄養士など他職種とも連携をとり、移植後の長期的なフォローアップを行っています。

詳しくはこちら (<https://isyokukyoten-ocu.jp/outofhosp/>)

（血液内科 LTFU看護師 西川 真紀）



患者さんに合わせたアドバイスや  
指導を行います

## 皮膚腫瘍外来での手術・治療について

当皮膚科では、皮膚悪性・良性腫瘍全般を取り扱っており、火曜日に専門外来を設けています。良性腫瘍としては、母斑（ほくろ）や脂肪腫、粉瘤などについて日帰りもしくは入院での手術を行っています。悪性腫瘍としては、悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外パジェット病を中心に、頭部血管肉腫やメルケル細胞がんなどの稀な腫瘍まで、診断から治療、術後経過まで一貫して診療を行っています。治療においても、手術、放射線治療、化学療法、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬など幅広く対応しております。また、8月より新たな試みとして午後に外来日帰り手術（月火水）を行っており、腫瘍によっては当日の切除が可能になりました。

（皮膚科 山内 あい子）

悪性	悪性黒色腫	11 件
	有棘細胞がん	18 件
	基底細胞がん	39 件
	乳房外パジェット病	7 件
	ボーエン病	16 件
	その他	10 件
良性		148 件

<2020年度 手術件数（249件）内訳>

# シリーズ 診療科紹介 小児科（新生児）

小児科では、子どもたちが安心して入院治療を受ける事ができるように、昨年17階西の小児病棟の半分をオープンスペースにしました。小児病棟では、保育士、チャイルドライフスペシャリスト、子ども療育支援士が医療チームの一員として協働し、入院中の子どもの不安やストレスをできる限り軽減できるように努めております。現在、サンタランからのご寄付で、病気やケガと闘っている子供たちが楽しめるガチャガチャプロジェクトを実施中です！



（小児科・新生児科 濱崎 考史）

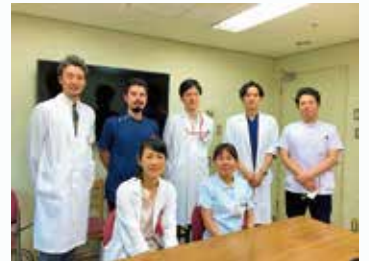
ガチャガチャプロジェクト実施中！

## シリーズ ～認定看護師・専門看護師の活動について～

第17回 当院では、専門的な知識と視点を持つ認定看護師・専門看護師が協力しながら対応・活動しています。

### ～精神科リエゾンチームの紹介～

2021年春、精神科医、精神看護専門看護師、心理師など多職種で構成された「精神科リエゾンチーム」を立ち上げました。当チームでは、入院中の患者さんを対象に精神疾患や心の不調に対する相談に応じ、身体的治療ができるだけスムーズに進められるようお手伝いします。入院中、持続する不眠や強い不安、気分の落ち込みなどで活動に支障をきたすようでしたら主治医を通してご相談ください。また、当院では各診療科においてせん妄予防対策を実施しています。せん妄は身体的問題や使用する薬剤によって引き起こされるもので、予防対策を実施していても発症することが少なくありません。そのため、せん妄を発症した際に速やかに対応できるよう体制を整えています。



精神科リエゾンチームスタッフ

（看護部 精神看護専門看護師 馬場 華奈己）

認定看護師とは、公益社団法人日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することが認められた者をいいます。  
専門看護師とは、公益社団法人日本看護協会の専門看護師認定審査に合格し、ある特定の専門看護分野において卓越した看護実践能力を有することを認められた者をいいます。

※公益社団法人日本看護協会ホームページから引用  
認定看護師：<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn>  
専門看護師：<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cns>

## 「臨床試験ボランティアマッチングポータル」にアクセスしてみてください！

治療の効果の検証、病気が発現するメカニズムの解明や、健康食品などの摂取が健康にどのような作用を及ぼすのかなどを調べるため、人を対象にしたさまざまな臨床研究が行われています。「おおさか臨床試験ボランティアの会」では、このような臨床研究に興味のある方や、協力してみようと思っておられる一般の方をボランティア会員として募り、臨床試験の情報提供や、被験者募集を行い、研究のスムーズな実施を支援しています。これまで募集情報については、郵送や病院内チラシを設置などでご案内してきましたが、昨年12月に「臨床試験ボランティアマッチングポータル (<https://crvmp.net/>)」をオープンし、インターネットで情報を提供するサービスをスタートさせました。同サイトから、参加申し込みや募集情報の検索はもちろん、健康に関するさまざまなコンテンツもお楽しみいただけます。また、臨床試験の募集情報について、研究者や企業の方々からの掲載申し込みも受け付け中です。



（臨床研究・イノベーション推進センター 徳満 緑）

詳しくはこちら (<https://crvmp.net/>)

発行 / 大阪市立大学医学部附属病院

<https://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/>

所在地：〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号  
電話：(06) 6645-2121 (代表)

初診受付時間：午前8時45分～午前10時30分  
休診日：土・日・祝日、12月29日～1月3日